

羅針盤

平成31年度第1号（通算303号）

平成31年4月1日（月）発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

大切なスタート！

POINT!

安心感のある学級（HR）づくりのために!!

4月は、進学や進級により、学習環境や人間関係など子供たちを取り巻く環境は大きく変化します。そのため、新しい学校・学級（HR）に期待を膨らませる一方で、不安を大きくする時期でもあります。教師は、学校・学級（HR）に対する子供たちの安心感を高めていくことが大切です。

そこで、4月から学校全体で取り組みたいことを紹介します。



「学級（HR）のルールづくり」

【目標・ルールを決め、一貫した指導を行う】

- ☐ 目標づくり
- ☐ 係の仕事の約束事
- ☐ 班活動の進め方
- ☐ 授業での約束事
- ☐ 机やロッカーの整理整頓の仕方

〔目標・ルールの視覚化〕

☆目標やルールを理解しやすいように、望ましい姿を掲示し、視覚的に意識させよう！

〔学級通信の活用〕

☆学級（HR）の目標や約束事が、保護者にも分かるように通信を活用しよう！

「子供同士の人間関係づくり」

【子供同士がつながる場を設定する】

- ☐ 仲間とふれ合う機会の保障
- ☐ 学校行事等の活用
- ☐ 意図的なエクササイズの実施
（ソーシャルスキル教育・グループエンカウンター等）

〔授業の中で交流〕

☆短時間でも、ペアやグループで交流する活動を授業の中で設定しよう！

〔肯定的評価〕

☆行事やエクササイズでは、行動や感情に焦点をあてた振り返りを大切にしよう！（ルールとリレーション）

「話しやすい雰囲気づくり」

【一人一人の子供に寄り添う】

- ☐ かかわりは、教師から（名前を呼んで…等）
- ☐ 準言語・非言語（表情、声の調子など）の活用
- ☐ 客観的理解と共感的理解による児童生徒理解

〔教師への信頼感〕

☆廊下ですれ違う時は、ゆっくり歩き、子供に優しく視線を送るなど、子供が話しかけやすい状況をつくろう！

〔傾聴の姿勢〕

☆子供たち一人一人の声に耳を傾け、子供の気持ちを感じ取り、適切な支援につなげよう！

「保護者との関係づくり」

【丁寧に情報共有を行う】

- ☐ 日頃からの情報共有（学校・家庭の様子や思い）
- ☐ 休み始めの丁寧なかかわり（欠席3日目まで）
- ☐ チーム支援体制による行動連携（SSW・SCの活用等）

〔家庭とのつながり〕

☆日頃からの情報共有で、保護者との信頼関係を築き、保護者にも安心感を与えよう！

〔電話連絡・家庭訪問〕

☆欠席の背景には新しい環境への不安や戸惑いが隠れているかもしれません。家庭での様子を丁寧に聞き取ろう！



これらの取組を学校全体で意図的に行い、安心感のある学級（HR）で子供たちを温かく見守っていきましょう。

羅針盤

令和元年度第2号（通算304号）

令和元年5月10日（金）発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

授業と授業のつながりを意識した学習指導を行いましょう！

主体的・対話的で深い学びのある授業づくりのためには、1時間1時間で付けたい力を明確にするとともに、単元のまとまりで考えることが大切です。児童生徒に学習の見通しをもたせて、授業と授業のつながりを意識させることが確かな学力へとつながります。例えば導入では、前時までの学習を想起させて本時のめあてをもたせることや、学習の定着状況を小テスト等で確認して、つまずきの解消を図り、学習意欲をもたせることが考えられます。終末では、学びを自覚化するための振り返りや、本時で学習した内容を活用するような宿題を出し次時へつなげる等が考えられます。

「新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり 実践事例編」をご活用ください！

1時間1時間での学びの質を高める授業づくりのために、当センターが作成した「新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり 実践事例編」をご活用ください。小・中学校全教科・領域で提案しています。

①授業づくりの視点

新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり（実践事例編）

中学校国語科

授業づくりの視点

身に付けたい力を育成するために、価値ある言語表現に着目し、考え表現できるよう言語活動を設定しましょう。

「読むこと」の領域では、「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成・共有」という学習過程における指導事項を確認した上で、単元のまとまりで授業を構想しましょう。

授業実践事例

- 単元の概要** 「走れメロス」の魅力について、意見交流会をしよう【第2学年】 C読むこと
作品の魅力について、読み取ったことを知識や経験と結び付けて自分の考えをまとめ、その意見と交流することを通して、自分の考えを広げたり深めたりする単元である。
- 単元を通して育成を目指す資質・能力**

知識及び技能	抽象的な概念を表す語句の量を増やすとともに、発表したり文章表現したりすることを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
思考力、判断力、表現力等	複数の情報を整理しながら、登場人物の言動の意味などを考え、解釈した内容や考えたことを既習の知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする。
学びに向かう力、人間性等	目的や意図に応じ、内容や表現の仕方に注意して文章を読み、自分で言葉を選び豊かに表現しようとする。
- 単元のデザイン** 全8時間

本単元の流れ	生徒の学びの姿
単元の見通しをもつ 作品全体の内容をつかむ	意見交流会に向けて作品の魅力や感想をまとめるという単元全体のイメージをつかむ。 ・自分の好きな名言や名場面を選び、みんなの感想が聞けておもしろそうだ。
名言や名場面の感想を交流して自分の考えを広げ深める。 【本時】 作品の魅力について自分の考えをまとめる	作品の中の名言や名場面を選び、理由を付けてグループで発表し、お互いに感想を交流する。 ・自分とは違う見方があり、自分の考えを広げる参考になった。 ・友達の名言と名言とを理由を聞いて、自分も共感できるところがあった。 ・友達の意見に感想を伝えることで、自分の考えが整理できた。
意見交流会をする 単元のまとめをする	単元を通して学んだ作品の魅力や、自分の知識や経験と結び付けてまとめ、学級で意見交流会をする。 ・友達の意見や、新しい発見があった作品の魅力や自分の考えを再考できた。 ・作品の魅力や表現のために、既習の読み方や語句を使うことができた。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手立て

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
○「意見交流会」という言語活動を通して、「読むこと」の単元へ見通しをもたせる。 ○学習計画表等を基に単元で学習することを確認させる。	○名言や名場面を選び、選んだ理由を付けて発表し、お互いに感想を交流させる。意見と比較したり、理由を述べたりすることで考えを深められるようにする。	○知識や経験と結び付けて、価値ある言語表現に着目し、考えさせることで、豊かな表現に示して活用させ、語彙力を養う。

②【事例】単元を通して育成を目指す資質・能力や単元のデザイン

③【事例】岡山型学習指導のスタンダード（授業5）を踏まえた本時の流れ

4 本時の展開 第4時/全8時

本時のねらい 「走れメロス」の名言を選んで発表し、感想交流を通して、自分の考えをまとめることができる。

本時の流れ	生徒の学びの姿	教師の手立て
学習の見通しをもち、本時のめあてを確認する	学習計画表で前時を振り返り、教師が例示した名言の発表の仕方を見て、本時のめあてを捉える。 ・グループ発表を通して、自分の考えをまとめていくんだな。 ・自分が発表するだけでなく友達の発表へ感想を伝えることが必要なんだな。	主体的な学びの手立て 学習計画表と名言発表の型を例示することで、本時の見通しとめあてをつかませる。 ○授業内容と家庭学習をつなぐために、宿題で発表用原稿を推敲させる。教師は机間指導の中で内容を確認して、できている内容に丸を付けたり、具体的にほめたりする。
めあて 名言について発表し、感想を交流しよう	グループで自分の考えを発表する	対話的な学びの手立て 他者の見方や考えを知り、自分の考えと比較できるように4人グループで伝え合う場を設定する。発表の際には、選んだ理由も付けて発表させる。
友達に自分の考えを発表する	4人グループになり自分で選んだ名言ベスト3を理由を付けて発表する。 ・自分と違う言葉の言葉を選んでおもしろいな。 ・メロスの言葉は読み手を引き付ける力があるな。	深い学びの手立て 選んだ名言と解釈が適切かどうかを話し合い、語彙集を使用して、より的確な表現はできないかを考えさせたりする。その際、人物設定や場面展開等、優れた表現に着目して、考えるように助言する。見本となる表現は称賛して、全体へ紹介する。
友達の発表に対して感想を伝え合う	③ 学習内容をまとめる	④ 本時の学習を振り返り、次回の学習への見通しをもつ。 友達の自分の感想を伝えることで自分の考えが整理できた。次は名場面を学習するんだな。
まとめ 名言に着目して発表し、感想を交流することで、自分の見方や考え方が深まる	振り返りをする	⑤ ○名言を選び、理由を付けて発表して感想を交流できたか、作品に対してどのような考えがもてたか等について、学びの振り返りをさせる。

生徒の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point
見通しをもたせめあてを確認

単元の流れを示した学習計画表等を基に、本時の位置付けを確認しましょう。身に付ける力を意識して、何について学習するのか等、見通しをもてるようにすることが大切です。

Point
目的や意義を明確にした話し合い

生徒が考えを友達と比較し自分の考えをもつために、違いや理由等を伝え合う機会を設定しましょう。目的や意義を明確にし、教師がペアやグループ等の適切な形態を設定しましょう。

Point
「言葉」に着目させる支援

教師が個別に学びを見取り、丸を付けたり、助言したりして、学びを価値付けしましょう。その際「言葉」に着目して、理解させたり、表現させたりすることが大切です。

④【事例】主体的・対話的で深い学びの手立て

⑤支援のポイント

実践事例編の活用の仕方

■自らの授業力向上のために

- ・日々の授業を振り返る視点として
- ・学習指導案作成時の手がかりに

■学校全体の授業改善のために

- ・校内研究や教科部会で学習指導案を検討する際に
- ・授業参観の視点や協議のポイントの参考に
- ・校内研究の成果や課題を検討する資料として



資料のQRコードです

羅針盤

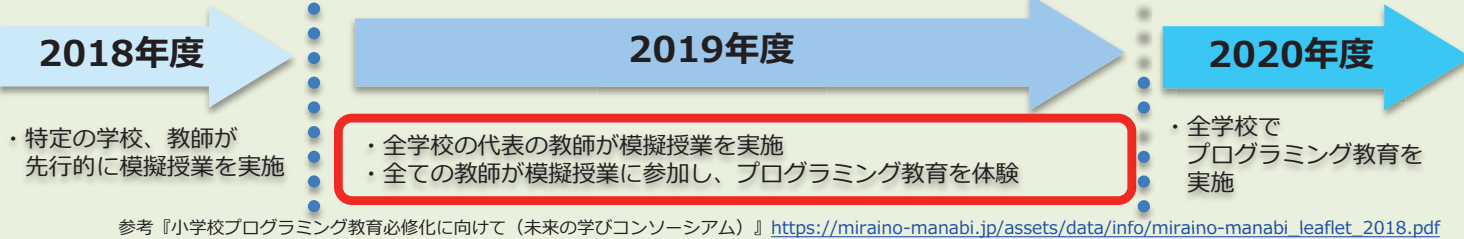
準備は進んでいますか!? 小学校プログラミング教育

必修化まで、
あと**11か月**
だよ!



「プログラミング教育」については、この言葉を新聞やテレビ等のメディアで目にしない日はないほど社会的に注目度が高まっています。そして、小学校プログラミング教育必修化までいよいよあと11か月となりました。残された期間内にやるべきことを、以下の図を基に確認しておきましょう。

【小学校プログラミング教育の円滑な実施に向けたの実施工程表（例）】



岡山県教育庁義務教育課からは、以下の通知が出されています。

小学校新学習指導要領におけるプログラミング教育の必修化に向けて、各小学校において、**校内で必ず1クラス以上の授業公開**を行い、**校内全教職員が参観する研修を行う**

しかし、現段階で次のような課題を感じている学校も多いのではないのでしょうか。



教師の心理面での不安感

- ・ 難しそう。指導できるか不安…。
- ・ 授業イメージがもてない。
（どの教科で？教材は何を？）

教材・環境面での不安感

- ・ 教材が学校にない。
- ・ ネットワーク環境が不十分



こうした課題を解決するために、以下の取組を進めましょう。



- 校内研修、模擬授業等を通して
- ・ プログラミング教育についての理解の促進
- ・ 自ら体験をすることで不安解消&授業イメージの獲得

- ・ 先行事例等を基に教材検討、予算化
- ・ 「教育のICT化に向けた環境整備5カ年計画（文部科学省）」に基づく環境整備



岡山県総合教育センターでは、先生方の不安感を解消し、今後の準備や授業づくりのヒントとなるよう**県内の先行実践13事例**を集約した「**小学校プログラミング教育実践事例集2019**」を作成しました。「プログラミング的思考を育成する授業づくりのポイント」を中心にまとめられており、有識者の方からの貴重なコメントや、実践者・実践校の校長の声も掲載しています。**是非ご一読の上、ご活用ください。**

教材や授業づくりに関するお問い合わせは、岡山県 総合教育センター情報教育部（0866-56-9107）までご連絡ください。



詳しくは…

http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h30/2019_jissennjireishuu.pdf

ダウンロード可・QRコードでも読み取り可→

岡山県の教職員の方に限定で、授業のダイジェスト動画（3分程度）を公開しています。児童がプログラミング体験を通して学ぶ姿をご覧いただくと、プログラミング教育の授業のイメージがさらにつかめます。
※詳しい動画視聴方法については、冊子をご覧ください。



岡山県教育庁義務教育課から発行された『小学校プログラミング教育「はじめの一步（第一版）」』 http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/601245_5028419_misc.pdfも併わせてご覧ください。



羅針盤

平成31年度第4号（通算306号）

令和元年6月7日（金）発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866) 56-9101 Fax (0866) 56-9121

知的障害教育における主体的・対話的で深い学び

新学習指導要領では、学校教育で育成を目指してきた「生きる力」がより具体的に示されています。それが三つの資質・能力です。この資質・能力を身に付け、生涯に渡って能動的に学び続けることができるようにするために、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が求められています。この授業改善は、小・中学校、高等学校、特別支援学校、全ての学校において行っていきます。

特別支援教育部では、二年間の研究の成果として、知的障害のある児童生徒の主体的・対話的で深い学びを実現する「学びを深めるための7つのポイント」（右図）を導き出しました。

今回の羅針盤では、そのうちの「③心が動く工夫をする」と「④考える工夫をする」に関わる実践の一部を紹介します。

学びを深めるための7つのポイント（単元構想）

- ① 教科等の「見方・考え方」を確認する
- ② 適切な目標を設定する
- ③ **心が動く工夫をする**
- ④ **考える工夫をする**
- ⑤ 振り返る工夫をする
- ⑥ **知的障害に対する支援・配慮をする**
- ⑦ **個に対する支援・配慮をする**

③心が動く工夫をする

⑥知的障害に対する支援・配慮をする



④考える工夫をする

⑥知的障害に対する支援・配慮をする



「空き缶のリサイクルをしよう」（特別支援学校高等部）という作業学習の一場面です。自分たちのリサイクル活動が、身近な人の役に立っていることを実感できると、より働く意欲が湧くのではないかと考え、授業の導入で地域の方からの感謝の言葉をビデオレターにして流しました。その結果、持続させることに課題は残りましたが、一時的に活動意欲が高まり、前向きに取り組もうとする姿が見られました。

「ワンベースキックボールをしよう」（特別支援学校中学部）という体育の単元の一場面です。話し合いにおいて、生徒の思考を深めるためには、知識・技能の確実な習得が必要であると考え、第一次にボールを蹴ったり投げたりする学習活動を取り入れました。第二次では、ミニホワイトボード上の名前カードを操作することで、守備位置や蹴る方向という視点から作戦を考えられるように工夫しました。すると、生徒からは「ここに蹴ったらい」「ここを守ったらい」などの発言が出てきました。

「知的障害のある児童生徒の教育的対応の基本」や上記の「学びを深めるための7つのポイント」、実践事例の成果と課題等の詳細については、右のブックレットに掲載しています。当センターのHPの「特別支援教育」をクリックすると御覧いただけますので、授業改善の参考にしてください。



知的障害教育における「主体的・対話的で深い学び」



本冊は、岡山県立特別支援学校（以下、県立特支校）の教員が、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進するため、県立特支校の教員が、県立特支校の教員と連携して作成したものである。県立特支校の教員が、県立特支校の教員と連携して作成したものである。県立特支校の教員が、県立特支校の教員と連携して作成したものである。

平成31年2月
岡山県総合教育センター

羅針盤

令和元年度第5号（通算307号）

令和元年7月5日（金）発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866) 56-9101 Fax (0866) 56-9121

大切な情報を守るために！ 情報セキュリティ意識を高めましょう

全国的に教職員による情報漏えい事故があとを絶ちません。先生方からは、「情報セキュリティ対策といわれても、何をすれば良いのかわからない」という声をよく聞きます。しかし、一人ひとりが情報セキュリティ意識を高め、ちょっとした工夫でできる対策があります。今回は、今日からすぐできる情報漏えい対策方法をご紹介します。

パスワードの管理

パスワードは容易に推測されないものを設定しましょう。

- ・12文字以上で推測されにくいもの
- ・使い回さない
- ・メモして貼らない
- ・他人に教えない



不審なメールは開封しない

- ・フリーメールアドレスからの送信
- ・日本語で使用されない漢字（繁体字、簡体字）
- ・実行形式ファイルが添付されている
(exe, scr, cpl など)



業務に関係のないソフトやサービスを使用しない

- ・やむを得ない場合は所属長の許可を
- ・ウイルス感染の危険
- ・他のソフトのインストール



USBメモリなど記憶媒体の管理

- ・廃棄の必要がある場合、媒体を初期化したうえで、破碎してから廃棄する
- ・管理職の許可なく、校外に持ち出さない



セキュリティに対する常識は変化しています！

これまでパスワードは「大小英字、数字、記号といった全文字種を組み合わせる」「8文字以上」という方法が推奨されてきました。しかし、文字種を多く使えば強固になるという考え方は通用しなくなりました。**現在では全文字種の利用は強く奨励されなくなり、文字列の長さを12文字以上にする、記号を使用することが奨励されています。**

【作成例：自分が好きなものを並べる】

tanuki yakiniku @Boeing787

機密情報を印刷した用紙の管理

- ・機密情報、個人情報を印刷した用紙は、裏紙として再利用しない
- ・機密情報を出力機器に印刷した場合、すみやかに文書を自席に持ち帰る
- ・クリアデスクポリシー(※)を遵守する
※机の上に情報媒体を放置しないことによって機密を守るためのセキュリティポリシー

パソコンの管理

- ・帰宅時は電源を落とし、他人に使われないようにする
- ・離席の際は、クリアスクリーンポリシー(※)を遵守する
※情報セキュリティに関する行動指針の一つで、自席のコンピュータを意図せず第三者に操作されたり画面を盗み見されたりしないよう対策を求めるもの



情報漏えい事故は、個人の過失が主な原因です！
日々の業務で大切な情報を扱っているという意識を持ちましょう

羅針盤

令和元年度第6号（通算308号）

令和元年8月5日（月）発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

学習評価はどうなるの？

校内研修で活用

いよいよ小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から新学習指導要領が全面实施です。求められる資質・能力が三つの柱で整理され、学習評価についても、これまでの4観点（国語のみ5観点）から、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到変わります。

学習評価の基本構造

求められる資質・能力の三つの柱

目標や内容

知識及び技能

思考力、判断力、
表現力等学びに向かう力、
人間性等

評価の3観点

- ・観点ごとにABCの3段階で評価
- ・観点別評価の結果を総括して、評定する

知識・技能

思考・判断・表現

感性、思いやり
など主体的に学習に
取り組む態度

個人内評価

学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価するとともに、それらを概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価します。

知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価します。

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた**粘り強い取組**の中で、**自らの学習を調整**しようとしているかを含めて評価します。

現行の「知識・理解」と「技能」に相当する観点です。

「粘り強く学習に取り組む側面」と「自ら学習を調整しようとする側面」の両面から評価します。

Q & A

「学びに向かう力、人間性等」と「主体的に学習に取り組む態度」は、どのように違うの？

資質・能力の三つの柱の一つ「学びに向かう力、人間性等」は、**ア、「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分と、イ、観点別学習状況の評価や評定にはなじまない部分（感性、思いやり等）に分けられます。**
イ、については、個人内評価として見取り、児童生徒へ伝えます。



学習評価の観点及び趣旨の例

他の教科につきましては、平成31年3月29日付の「児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」をご覧ください。

小学校 国語科

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたりしながら、言葉がもつよさを認識しようとしているとともに、言語感覚を養い、言葉をよりよく使おうとしている。

学習評価の方法例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ペーパーテストで事実的な知識の習得を問う問題と知識の概念的な理解を問う問題のバランスに配慮 ○実際に知識や技能を用いる場面を設ける ・児童生徒に文章で説明させる ・観察・実験をさせたり、式やグラフで表現させたりする	○論述やレポート作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を入れる ○ポートフォリオを活用する ○ペーパーテスト	○ノートやレポート等における記述 ○授業中の発言 ○教師による行動観察 ○児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いる

学習評価で大切にしたいこと

教師の授業改善と児童生徒の学習改善につなげるために、学習評価の在り方は重要です。これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性がないものは見直し、教育課程や学習・指導方法の改善に生かしていくことが大切です。

〈現行の学習評価の課題〉

- ・学期末などの事後での評価に終始してしまうことが多く、評価が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない。
- ・現行の「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭しきれていない。等

平成31年1月21日文科科学省中央教育審議会
「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」より

〈教育課程や学習・指導方法の改善〉

- 1 カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価
- 2 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善と評価

学習評価の在り方ハンドブック (参考資料)

学習評価に関する先生方からの様々な疑問に対する答えも、このハンドブックに掲載されています。ぜひ一度ご覧ください。

国立教育政策研究所のHPにあります。



(小・中学校編)



(高等学校編)

【今後の予定】

学習評価に関する参考資料(小・中学校)については、国立教育政策研究所より11月に提示される予定。これに関わり、県教育庁義務教育課から「学習評価に関するガイドライン(仮称)」等が示され、県総合教育センターから「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価の在り方」を令和2年2月に発刊予定。

羅針盤

令和元年度 第7号 (通算 309号)
令和元年9月20日(金) 発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

「学校の課題解決に向けた取組の提案」

岡山県が実施する中堅教諭等資質向上研修について

平成29年4月1日の教育公務員特例法の一部改正により、「岡山県教員等育成指標」を策定し、その内容を踏まえ、平成29年度より中堅教諭等資質向上研修として実施していた10年経験者研修と5年経験者研修を統合して、中堅教諭等資質向上研修を実施しています。

中堅教諭等資質向上研修では、「現職研修の一環として、個々の能力、適性等に応じて学校活動その他の学校経営の円滑かつ効果的な実施において、中核的な役割を果たす力を向上させる」ことを目的としています。**研修のゴールイメージとして「学校の課題解決に向けた取組を考え、提案する力を身に付ける」**こととしています。受講前年度に管理職と学校課題を把握し、課題に対応したコースを選択します。個々の資質能力の向上と併せて、学校課題の解決に向けた取組の提案を通して、学校経営に参画できる力を身に付けることができるよう校外研修と校内研修で得た知見を取組に結び付け、実効性のある研修にすることがポイントとなります。

受講年は8～10年目の教職員としています。異動後での受講や免許状更新講習との重複など今までの10年経験者研修の課題から実施時期の弾力化を図りました。

今回は、岡山県が実施する中堅教諭等資質向上研修の概要等を御紹介します。今後受講される方や中堅教諭等資質向上研修受講者を核として学校経営に生かしたいと思われる管理職などさまざまな方に手に取っていただければ幸いです。

研修の概要について

中堅教諭等資質向上研修では、**校外研修7日間、校内研修30時間実施**し、学校の課題や受講者の職能成長に合わせてA～Cの三つの系の中にある(※)11のコースから選択します。

【共通研修】(2日)：中堅教員として共通に身に付けることが求められる内容の研修

- I 開講日：ガイダンスで中堅研の見通しをもち、学級(HR)経営・生徒指導など中堅教員として必要な内容について学ぶ。
- II B & S研修：初任研受講者と中堅研受講者による合同研修。学習指導を通してリーダーシップとチームマネジメントについて学ぶ。

【選択研修】(4日)：研修教員が将来の職能成長を踏まえて選択する研修

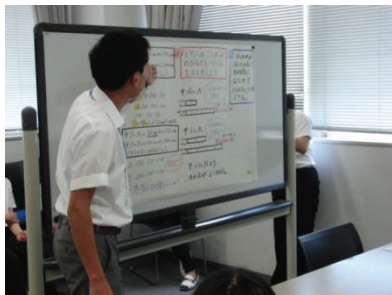
- A 実践的指導力向上系研修：専門性を高める研修を受講して、実践的指導力の向上を目指す。
 - (1)学習指導コース (2)学級(HR)経営、生徒指導コース (3)新たな教育課題への対応コース
 - (4)組織運営の改善コース (5)ニーズ対応ブラッシュアップコース
- B 校内研究推進系研修：校内研究を推進することなどを通して、校内連携や情報共有を図りながら組織を動かす経験をする。
 - (1)研修協力員コース (2)研究指定校コース (3)校内研究推進校コース
- C 学校経営参画系研修：勤務校とは異なる業種や学校で体験的に学ぶことを通して、協働しながら組織をマネジメントする知見を得る。
 - (1)企業・社会体験コース (2)学校間連携コース (3)協働的な人間関係づくりコース

【成果発表会】(1日)：学校の課題解決に向けた取組の提案を発表

今年度の受講者アンケートから

※養護教諭・栄養教諭は二つのコースに分かれ、コース数も異なる。

初任者の模擬授業を見て、自分も同じことで悩んでいたことを思い出し、具体的な助言を行うことができました。教科の違いもあるが、校内の若手教員の悩みにも対応できるよう積極的に関わっていこうと思いました。(共通研修Ⅱ B & S研修)



緊張感のある厳しい仕事を実感することができました。また重労働でもあることから、今の高校生のイメージはかなり甘いと感じました。今後のキャリア教育で生かせる経験ができて良かったです。(C(1)企業・社会体験コース 三菱自動車水島製作所)



各学校のモデルリーダーとなる受講者が研修で様々なことを学んでいます。今後、中堅教員が様々な場面で活躍できるよう学校全体で応援していただければと思います。

【バックナンバー】 <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho> (担当：教育経営部)

岡山県総合教育センターだより

羅針盤

最新の情報を先行発信!!

令和元年度 第8号(通算310号)
令和元年10月25日(金) 発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

ふるって
ご参加ください



必見

岡山県総合教育センター 教育研究発表大会

1

日時 令和2年2月15日(土) 10:00~15:30

(受付:9:30~10:00)

2

会場 岡山県総合教育センター

〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545-11

TEL(0866)96-9101[代表] FAX(0866)56-9121[代表]

Webページ <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/>

3

日程

9:30	10:00	10:20	12:00	12:50	14:00	14:15	15:25	15:30
受付	開会 行事	基調講演	昼食 休憩	所員発表 I	休憩	所員発表 II 長期研修員発表	閉会 行事	

講師 大原 あかね 氏

(大原美術館 理事長)

【プロフィール】

1967年生まれ。京都市で育つ。
倉敷市在住。一橋大学経済学部卒業。
青山学院大学大学院国際政治経済学研究科修了。
金融関係の民間研究所勤務を経て2000年から大原美術館理事。
11年から専務理事。16年7月から理事長。
前任の大原謙一郎氏の長女。
17年4月から倉敷市教育委員会委員。

所員発表 I・II

- 不登校やいじめ、暴力行為等を生まないための学校づくりに関わる
校内研修パッケージの開発Ⅲ (生徒指導部)
- 小学校プログラミング教育に関する研究
～プログラミング的思考を育成する授業づくり～ (情報教育部)
- 新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導と評価に関する研究
(教科教育部)
- ミドルリーダー研修の研修成果を活用した校内での職能成長に係る
実態調査 (教育経営部)
- 通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の指導・
支援に関する研究
～多様な学びの場ガイドブック作成～ (特別支援教育部)

※演題は未定です。

※所員発表の研究テーマは、変更する可能性があります。

4

申込

詳細については12月配布予定の【御案内】で御連絡します。

5

【問い合わせ】

岡山県総合教育センター

TEL(0866)56-9105 [生徒指導部] 担当:塚崎

【バックナンバー】<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/>

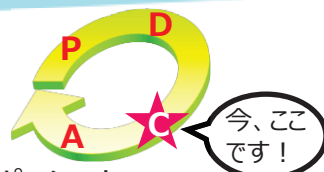
羅針盤

令和元年度第9号（通算311号）
令和元年12月13日（金）発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

生徒指導体制の点検・見直しをしましょう

いじめ問題に焦点を当てて

年間の取組をPDCAサイクルで考えると、点検・見直し（C）の時期を迎えました。本号では、いじめ問題に焦点を当て、振り返る際の主なチェックポイントや、次年度に向けての取組例について紹介します。



いじめ問題に関する取組の振り返り～主なチェックポイント～

教職員個人としての振り返り

- いじめの未然防止の観点に立ち、学級（HR）経営や授業場面等において、互いを尊重し認め合う集団づくり等、開発的・予防的生徒指導の充実を図ったか【未然防止】
- いじめの定義を正しく理解し、日常の観察（表情・服装・友人関係等）やアンケート調査、面談等のあらゆる機会を通じて、早期発見に努めたか【早期発見】
- いじめを発見したり、いじめの通報・相談を受けたりしたとき、いじめられた児童生徒の安全を確保し、寄り添いながら支援ができたか【いじめへの対処】
- いじめの疑いを確認したとき、些細な事でも一人で情報を抱え込むことなく、学年主任に報告するなど、速やかに学校の組織対応につなげたか【いじめへの対処】

学校組織としての振り返り

- いじめの定義や学校の基本方針は、全教職員で共通理解されているか【体制づくり】
- 児童生徒のいじめ問題に対する主体的な活動を学校で推進したか【未然防止】
- 児童生徒への情報モラル指導や保護者への啓発を実施したか【未然防止】
- いじめの疑いがあることが確認された時点で、その情報を特定の教職員が抱え込むことなく、速やかに組織として共有ができたか【早期発見】
- 認知した全てのいじめに対し、速やかにいじめ対策委員会を開き、その解消に向け、組織として早期対応にあたったか【いじめへの対処】
- 事案に応じて、地域や関係機関等との連携協働の必要性を確認し、連携したか【連携】
- いじめの認知及び対処を契機として事例を検証し、いじめの未然防止、早期発見と対処の方法等について改善を図ったか【検証・改善】
- 学校の基本方針にある取組を学校評価項目に位置付け、点検・評価したか【点検・評価】

次年度に向けての取組例

- ☆ 「学校いじめ問題対策基本方針」の見直し
- ☆ いじめの未然防止に関する校内研修の実施・参加
- ☆ 解消していないいじめも含め、情報共有と協働連携のための次年度への引き継ぎ
- ☆ 児童生徒のいじめ問題に対する主体的な活動等を、次年度の年間計画に組み込む



参考資料 岡山県教育委員会（平成30年1月）「岡山県いじめ問題対策基本方針」及びその「概要版」（担当・生徒指導部）

次の発行は、令和2年1月17日（金）の予定です。

【バックナンバー】 <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/>



令和元年度 第10号 (通算312号)
 令和2年1月17日 (金) 発行
 岡山県総合教育センター
 Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

令和元年度岡山県総合教育センター 教育研究発表大会

教育研究発表大会では、当総合教育センターの教育研究の成果や学校を支援する取組等を紹介し、情報の共有や研究協議を通して、岡山県の教育の充実を図りたいと考えています。

記

日 時 令和2年2月15日 (土) 10:00～15:30

会 場 岡山県総合教育センター
 〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川 7545-11
 TEL (0866) 56-9101 [代表] FAX (0866) 56-9121 [代表]
 Webページ <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/>



日 程

9:30	受付開始
10:00	開会行事
10:20	基調講演 講師 大原美術館 理事長 大原あかね 氏
12:00	演題 「キテ、ミテ、カンジテ、大原美術館」
昼食・休憩	
12:50	3分科会 【所員発表Ⅰ】(70分) ・ミドルリーダー研修の研修成果を活用した校内での職能成長に係る実態調査 (教育経営部、最終報告) ・新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導と評価に関する研究 (教科教育部、最終報告)
14:00	・小学校プログラミング教育に関する研究～プログラミング的思考を育成する授業づくり～ (情報教育部、最終報告)
移動・休憩	
14:15	5分科会 【所員発表Ⅱ】(70分) ・不登校やいじめ、暴力行為等を生まないための学校づくりに関わる校内研修パッケージの開発Ⅲ (生徒指導部、最終報告) ・通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の指導・支援に関する研究～多様な学びの場ガイドブック作成～ (特別支援教育部、中間報告)
15:25	【長期研修員発表】(40分) *終了次第解散 ・総合的な学習の時間における小学校プログラミング教育の一考察～地域学習を通して～ (奈義町立奈義小学校) ・生徒が家庭学習に意欲的に取り組むための指導の工夫 (井原市立木之子中学校) ・学力の定着を図るための、つながりをもたせた英語4技能5領域指導 (岡山県立西大寺高等学校)
15:30	閉会

羅針盤

令和元年度第11号（通算313号）

令和2年2月25日（火）発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866) 56-9101 Fax (0866) 56-9121

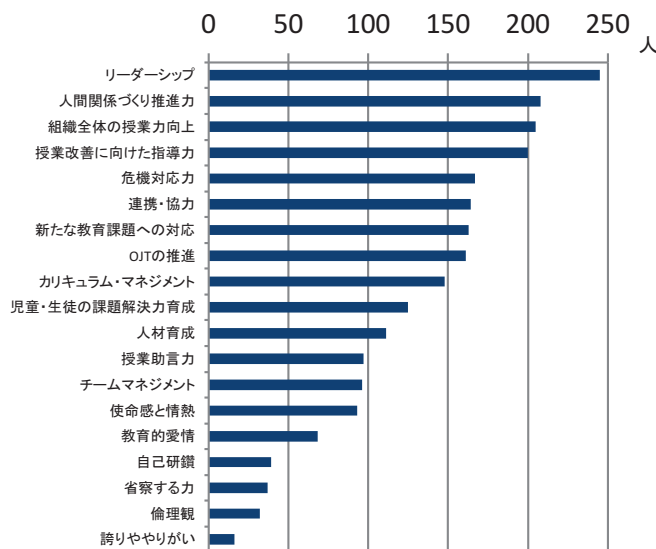
提案～校内におけるミドルリーダーの効果的な育成方法～

校内におけるミドルリーダーの効果的な育成方法を明らかにすることを目的に、総合的ミドルリーダー研修講座修了者（平成25～30年度）の職能成長をまとめました。今回は、総合的ミドルリーダー研修講座修了者と校長対象に行ったアンケート結果の一部と、これらの調査から明らかになった校内における効果的なミドルリーダーの育成方法の3つの視点を紹介します。

『校長がミドル層に期待する資質・能力』

19の項目から5つ選択して回答

校長全員研修講座（令和元年9月） 回答者476名

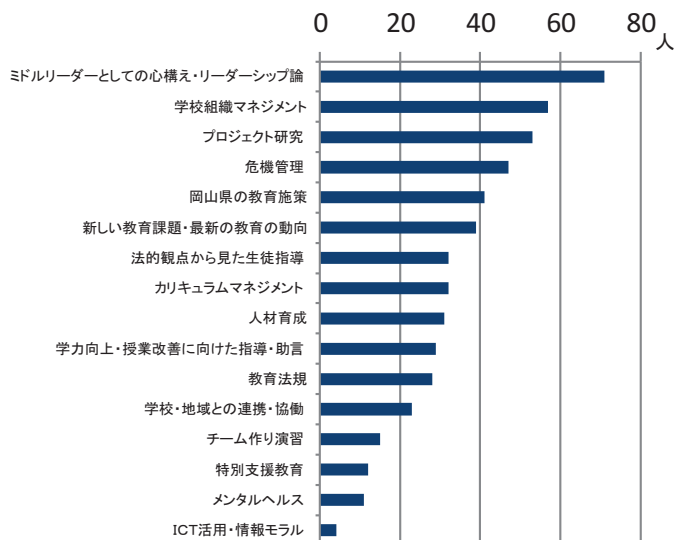


校長は、中堅教員に対して若手教員への指導だけではなく、管理職と若手教員を繋ぐ役割、学校の組織力向上の担い手としてのリーダーシップを期待していることがうかがえました。

『現在の職務に生かすことができていると感じられる研修内容』

16の項目から5つ選択して回答

総合的ミドルリーダー研修講座修了者 回答者105名



研修で組織におけるミドルリーダーの必要性を学び、その役割を自覚し、学校経営に積極的に関わることになった等、意識と行動の変化が見られました。

校内におけるミドルリーダー育成の視点

ミドルリーダーの育成には、中堅教員に学校の中核を担う役割であるという自覚をもたせることと、管理職からの戦略的な働きかけや支援が必要不可欠です。アンケートや企業、他県の調査からそれらを効果的に行うために、次の3つの視点が重要であることがうかがえました。

- ①中堅教員がリーダーシップやファシリテーション力を発揮できる場を意図的に設けること
- ②中堅教員自身の研修に対するモチベーションを高めるために工夫すること
- ③中堅教員が取組の成果を短期間で振り返ることができるように、インターバルを置いた計画にすること

今後は、この調査結果を活用し、各校での組織的なミドルリーダーの育成方法について、啓発・普及を進めていくとともに、総合教育センターの研修講座の改善に役立てていきたいと思っております。各調査や提案の詳細については当センターのHPにてご覧いただけます。

切れ目のない支援によるスムーズなスタートに向けて

新型コロナウイルス感染症への対策として、各学校園においても様々な対応等が求められており、お忙しい毎日を過ごされていることと思います。事態が収束し、子どもたちの命と健康を確保できる時期が来るまで、関係者一同で、協力しながら何とか乗り越えていきたいものです。

さて、このような状況の中、特別な支援を必要とする子どもたちの中には、大きな戸惑いを感じている子どももたくさんいるのではないのでしょうか。そして、間もなく、一番環境の変化が大きい4月を迎えます。例年よりも一層、丁寧な引き継ぎが必要となってきます。大変な時期ではありますが、子どもたちが安心してスムーズなスタートを切ることができるように、今までの支援をしっかりと次年度につなげていきましょう。そこで、今回は「引き継ぎ」について考えたいと思います。

効果的な引き継ぎのためには、今年度の取組等を振り返り、引き継ぐ内容を整理する必要があります。振り返りや整理する際に、下記の視点やポイントを参考にしてみてください。

なぜ効果的であったかを振り返ることで、その指導・支援の意味が明確になり、今後に生きていきます。

この子に、どんな力が育つと、学習や生活がしやすくなるのでしょうか？そういった指導内容や方法についても話しておくといいでしょう。

振り返りのポイント（例）

- ☐ 実態を適切に捉えることができていたか。
- ☐ 指導内容がどの程度身に付いているか。
- ☐ 効果的な指導・支援は何だったか。
- ☐ なぜ効果的だったのか。
- ☐ 校内支援体制は充分だったか。
- ☐ 周囲の理解や関わりはどうだったか。
(在籍学級、交流学級等)
- ☐ 今後の課題は何か。 等

支援方法のみを引き継ぐのではなく、困難さの背景にある要因も引き継いでいくようにしましょう。

そうすることで、新しい環境の中で生じるであろう困難さをイメージしやすくなると思われます。そして、その対応についても話し合っておくと良いでしょう。

これらの情報を引き継ぐときに「個別の教育支援計画・個別の指導計画」「個別支援シート」等を活用すると、引き継ぎがより確実なものになります。また、引き継ぎを受ける側にとっても、そこに記載されている情報と実際の行動観察とを照らし合わせることができ、具体的な指導・支援について考えやすくなるはずです。

※「個別の教育支援計画等」の作成と活用については、岡山県総合教育センター『eラーニング研修所』の「dh3101 平成31年度 新任特別支援教育コーディネーター研修講座 eラーニング研修」を参考に作成してください。

<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/vod/index.htm>

特に、進学等による学校間での引き継ぎの場合は、内容が確実に伝わるように、時間を設定して丁寧な引き継ぎが行われることが大切です。一番避けたいことは、今まで行われてきた支援が途切れてしまうことです。しっかり引き継ぎを行い、支援をつないでいくことで、子どもたちの安心・安全な生活を支えていきましょう。

(担当・特別支援教育部)

【バックナンバー】 <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho>